



四万十町  
町内「ふら〜り」散策

# 口神ノ川

くちごうのかわ

この募集には藩内の多くの農民・商人が応じたという。それらの人たちのうち、口神ノ川に入り、後に豪農となった人物がいる。竹崎利左衛門という。安芸の人である。彼は、四万

「窪川地区一帯に移住して3ha以上を開墾すれば、これを領地として与え、さらに農民・商人であれば、名字帯刀を許可し、郷士として侍格を与える」つまり、窪川地区の未開墾の土地を農地にすれば武士になれるというものである。

1821年(文政5年)、土佐藩は藩内の米の生産能力を高めるため、藩内全域に対して、ある「お触れ」を出す。要約すると次のようなものであった。

口神ノ川の集落としての歴史は古い。ただし、農地として本格的に開墾されたのは、江戸中期から後期にかけてである。

口神ノ川の集落としての歴史は古く、昭和55年のある日のこと、とある地区住民の方が「地なおし」をしていて、畑の底土の中にちらっと埋もれている見慣れない物体を発見。丁寧に取って出してみたところ、円盤状で少し重みのあるものであった。「これは、何かいわれのあるものかもしれない」と思い、人づてに調査を依頼。すると、現在の歴史民族資料館・館長のお父様が調査をしてくださり「鎌倉時代中期の手鏡」であることが判明した。海辺に鳥が舞う景色のレリーフが可愛らしく、武士が台頭してきた鎌倉時代の荒々しい印象とは対照的で、実に興味深い。

十川沿いで、しかも神ノ川河口に位置するこの肥沃な土地を精力的に開墾し米づくりに励んだ。その努力が実り、彼ら一族は次第に財を成し、それらを地域に還元することで、この口神ノ川地区集落の生活基盤が徐々に安定していったのだという。

さて、この集落の文化的歴史の古さを証明する「お宝」がある。鎌倉時代中期のものと思われる青銅製の手鏡である。昭和55年のある日のこと、とある地区住民の方が「地なおし」をしていて、畑の底土の中にちらっと埋もれている見慣れない物体を発見。丁寧に取って出してみたところ、円盤状で少し重みのあるものであった。「これは、何かいわれのあるものかもしれない」と思い、人づてに調査を依頼。すると、現在の歴史民族資料館・館長のお父様が調査をしてくださり「鎌倉時代中期の手鏡」であることが判明した。海辺に鳥が舞う景色のレリーフが可愛らしく、武士が台頭してきた鎌倉時代の荒々しい印象とは対照的で、実に興味深い。



出土した青銅製の鏡。箱は地区の大工さんが、この手鏡のために丁寧に作ってくれた。この箱もまた逸品である。

さて、この集落の文化的歴史の古さを証明する「お宝」がある。鎌倉時代中期のものと思われる青銅製の手鏡である。昭和55年のある日のこと、とある地区住民の方が「地なおし」をしていて、畑の底土の中にちらっと埋もれている見慣れない物体を発見。丁寧に取って出してみたところ、円盤状で少し重みのあるものであった。「これは、何かいわれのあるものかもしれない」と思い、人づてに調査を依頼。すると、現在の歴史民族資料館・館長のお父様が調査をしてくださり「鎌倉時代中期の手鏡」であることが判明した。海辺に鳥が舞う景色のレリーフが可愛らしく、武士が台頭してきた鎌倉時代の荒々しい印象とは対照的で、実に興味深い。

さて、この集落の文化的歴史の古さを証明する「お宝」がある。鎌倉時代中期のものと思われる青銅製の手鏡である。昭和55年のある日のこと、とある地区住民の方が「地なおし」をしていて、畑の底土の中にちらっと埋もれている見慣れない物体を発見。丁寧に取って出してみたところ、円盤状で少し重みのあるものであった。「これは、何かいわれのあるものかもしれない」と思い、人づてに調査を依頼。すると、現在の歴史民族資料館・館長のお父様が調査をしてくださり「鎌倉時代中期の手鏡」であることが判明した。海辺に鳥が舞う景色のレリーフが可愛らしく、武士が台頭してきた鎌倉時代の荒々しい印象とは対照的で、実に興味深い。

さて、この集落の文化的歴史の古さを証明する「お宝」がある。鎌倉時代中期のものと思われる青銅製の手鏡である。昭和55年のある日のこと、とある地区住民の方が「地なおし」をしていて、畑の底土の中にちらっと埋もれている見慣れない物体を発見。丁寧に取って出してみたところ、円盤状で少し重みのあるものであった。「これは、何かいわれのあるものかもしれない」と思い、人づてに調査を依頼。すると、現在の歴史民族資料館・館長のお父様が調査をしてくださり「鎌倉時代中期の手鏡」であることが判明した。海辺に鳥が舞う景色のレリーフが可愛らしく、武士が台頭してきた鎌倉時代の荒々しい印象とは対照的で、実に興味深い。

さて、この集落の文化的歴史の古さを証明する「お宝」がある。鎌倉時代中期のものと思われる青銅製の手鏡である。昭和55年のある日のこと、とある地区住民の方が「地なおし」をしていて、畑の底土の中にちらっと埋もれている見慣れない物体を発見。丁寧に取って出してみたところ、円盤状で少し重みのあるものであった。「これは、何かいわれのあるものかもしれない」と思い、人づてに調査を依頼。すると、現在の歴史民族資料館・館長のお父様が調査をしてくださり「鎌倉時代中期の手鏡」であることが判明した。海辺に鳥が舞う景色のレリーフが可愛らしく、武士が台頭してきた鎌倉時代の荒々しい印象とは対照的で、実に興味深い。

さて、この集落の文化的歴史の古さを証明する「お宝」がある。鎌倉時代中期のものと思われる青銅製の手鏡である。昭和55年のある日のこと、とある地区住民の方が「地なおし」をしていて、畑の底土の中にちらっと埋もれている見慣れない物体を発見。丁寧に取って出してみたところ、円盤状で少し重みのあるものであった。「これは、何かいわれのあるものかもしれない」と思い、人づてに調査を依頼。すると、現在の歴史民族資料館・館長のお父様が調査をしてくださり「鎌倉時代中期の手鏡」であることが判明した。海辺に鳥が舞う景色のレリーフが可愛らしく、武士が台頭してきた鎌倉時代の荒々しい印象とは対照的で、実に興味深い。

町のうごき	(10月31日) 人口		前月比		出生		死亡		転入		転出	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	8,597	9,591	6	1	8	2	6	15	16	22	12	8
計	18,188		7		10	21	38	20				
世帯数	8,653		5		(10月中の届出)							

四万十川の  
水質状況

	適正值(mg/l)	11月10日
リン酸	≤ 5.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.05
化学的酸素要求量	≤ 10.0	2.45

調査：大正(吾川)  
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)